

白糠のアイヌ語地名

和天別川筋の アイヌ語地名

第3回
(最終回)

○シャチホロ川

「シャチホロ川」は、河原地区で和天別川から分かれて南西方向へ向かっている川です。

「シャチ」サツ（乾いた）・ホロ（水）」という意味から、「水量の少ない乾いた川」のことを言います。

古地図には「シャチオロ」と記載されているものがありますが、白糠地名研究会は「サツ（乾いている）・オロ（ところ）」という意味で、シャチホロと同じく乾いているところを表すと説明しています。

■乾いた川

「サツ」が付く地名として、茶路川筋の「オサツペ」は、「オ（川尻が）・サツ（かれている）・ペ（ところ）」という意味があり、また、庶路川筋の「サツテクナイ」も「サツテク（干せている、乾い

ている）・ナイ（沢）」という意味で、どちらも水の流れが見えない川を表しています。

札幌も「サツ」がつく地名で、市のホームページでは、「サツ（乾いた）・ポロ（大きな）・ペツ（川）」と「サリ（その葦原が）・ホロ（広大な）・ペツ（川）」という2つの説が紹介されています。

北海道の名付け親として知られる探検家の松浦武四郎は『西蝦夷日誌』の中で、「サツポロはサツテポロの儀にて、多く乾くの儀。此川急にして干安き故也」と記し、アイヌ語地名研究家の山田秀三は、『北海道の地名』で、いくつかの説を分析して「サツ・ポロ・ペツぐらいに解するのが自然のような気がする」と、松浦武四郎の説をとっています。

【参考・『新版 蝦夷日誌』下「西蝦夷日誌」、『北海道の地名』】

○コイカクシワツテ

「コイカクシワツテ」は、「コイカ（東方の）・クシ（通る）・ウワツテ（和天別川）」という意味で、河原橋の南で西へ向かう和天別川から東に分かれて北上するコイカクシ（恋隠）川のことを言います。

■波が上を通る

貫塩喜蔵エカシは、『白糠のアイヌ語地名』でコイカクシについて「コイ・カは、波の上（かみ）と解すれば東方という意味になるが、コイ・カを波の上（うえ）と解することもできる。これにクシ

をつけると、波が上を通るという意味になる。津波が恋隠の火の見やぐらあたりまで押し寄せてきて、その名がついた」と、津波伝説をもとにした解釈を述べています。

コイカクシワツテは、アイヌの先人が、この地まで波が川をさかのぼった津波のことを知らせるために付けた地名かもしれません。

平成25年5月から、65カ所の地名を紹介して参りました「白糠のアイヌ語地名」は、今回は最終回です。長い間ありがとうございました。

